

2021年10月号 No.220

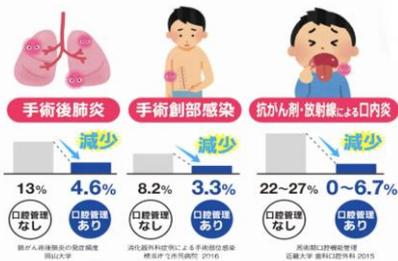
こんにちは、歯科衛生士の佐川です。朝晩とても過ごしやすくなってきましたね。これからもっと秋が深まっていきますが、気温の変化による体調不良には気を付けたいですね。先日、

岡山済生会総合病院 医科歯科連携推進研修会
『地域で取り組む周術期口腔機能管理』

というセミナーに参加しました。現地会場とオンラインを合わせた、ハイブリット開催になっていて、オンラインにて視聴いたしました。

周術期口腔機能管理!? 長〜い漢字が並んで難しくみえますが、全身麻酔などを使用した外科手術や、放射線療法、化学療法の際には、お口の中のそうじが大事ですよー という内容の勉強会でした。手術とお口、と言ってもあまり関係なさそうに感じますが、「口腔内環境を整備すること」は手術にとっても関わりがあるとされています。入院・麻酔・手術・回復といった患者さんのおかれる術前術後の一連の期間を周術期といいます。その期間に起こりうるお口のトラブルとして、歯の損傷とお口の環境が原因の術後感染症があります。

手術前口腔内管理の重要性



口腔ケアを受けるメリット

- ① 手術後の肺炎予防
- ② 手術部位の感染予防
- ③ 全身麻酔の挿管時に歯が折れたり抜けないように準備する。
- ④ 口腔疾患の予防

① 手術後の肺炎予防

口の中の細菌が肺に入ると肺炎をおこします。特に手術後で抵抗力が下がった方には発症のリスクが高くなります。また全身麻酔の手術では挿管チューブと共に口腔内の細菌が気管に押し込まれて、肺炎が起きると本来の治療に遅れが生じる可能性がありますので、それを予防します。

② 手術部位(傷口)の感染予防

耳・鼻・のど等の手術部位への感染や唾液とともに飲み込んだ口腔内細菌が手術部位に感染することにより手術創部の治癒が遅れ、入院期間が長くなる可能性があるためそれを防ぎます。

③ 全身麻酔の挿管時に歯が折れたり抜けないように準備する

特に前歯がグラついている場合には手術の前に抜歯や固定を行う必要があります。

④ 口腔疾患の予防

お口の中が不衛生な状態が続くと歯周病が進行して、歯の周りの血管からお口の中の細菌が全身に広がってしまいます。その結果、糖尿病で2.5倍、心疾患で2.8倍、脳卒中で2.1倍など、病気の発症リスクが高まるため、それを防ぎます。

かかりつけ
歯科医を
持ちましょう



しかしながら手術とは、計画的に実施されるものもあれば、緊急で行われる場合もあります。後者の場合、オペ前の口腔環境の整備をすることはできません。普段からかかりつけ歯科での定期的な専門ケアが、もしもの時に、そしてそれに関わらず、いつまでも自分の歯で美味しく食事を食べられることに繋がるんだと思ったセミナーでした。

10月7日・14日・21日・28日(木)は休診です。

22日(金)は、午前中休診です。
宜しく願いいたします。



医療法人SHT
まき歯科・矯正歯科クリニック
Smile Health Thanks

〒700-0975 岡山市北区今3-1-35

TEL 086-243-1006

FAX 086-243-1106

HP: <http://www.maki-dental.jp>

Mail: makishika@do5.enjoy.ne.jp

←インスタグラムはこちらから!

